

サポーターからのメッセージ

あぶあぶあのみなさんは人と出会えば必ず、すぐ"通じ合える力"をもっています。これは特別な力です。世界中の特別な力を持つ人たちに会って下さい。

L. Bonet (サグラダファミリア教会神父)

The Abu-Abu-a Band and Musical Team will inspire you! You will leave with more courage to face your own personal challenges after seeing these dedicated musicians.

Dr. Max Vercruyssen (Hawaii Academy Director)

楽団あぶあぶあの楽団員のみなさんが生み出す音を聞いてください。

そこらの音とは全然ちがう、ぜんぜんちがう音なのです。一度聞いたら天からの贈りもののように心の中でひびき続けること受けあいです。

2年前の東京公演の日から私の心の中にも小さな火がともっています。この小さな火をあなたにも渡したい。楽団員の皆さんが心をこめて毎日毎日何時間も欠かすことなく練習し続けて24年。信頼と喜びと友情の下で生まれた美しい曲の数々を聞いて下さい。ぜひぜひ大切なものを受けとりに東京公演に来て下さい。

青木裕子 (NHK アナウンサー・朗読家)

音楽はもうそれだけで異空間です。次元を超え、国境を超え、すべてを越えます。伸びやかで、軽やかで、思いっきり自由なステージを期待しています。頑張り、空間を飛び跳ねる天使達！お客様に沢山の幸せを、プレゼントしてあげて下さい。

阿木耀子 (作詞家)

“愛”あるところに常に“幸”あり

石上恵一 (東京歯科大学教授 スポーツ歯学研究室主任)

楽団あぶあぶあ&ミュージカルチームLOVEの第2回東京公演が盛大に開催されます。心からお祝いします。

25年前に始まった皆さんの活動は、兵庫から全国へ、世界へと広がり、障害を持つ方々に夢と希望を与え続けています。本当に素晴らしいことです。

いよいよこの秋には、兵庫県で、第6回全国障害者スポーツ大会「のじぎく兵庫大会」が開催されます。皆さんが心をこめて創られた「きみに伝えたい」が大会のテーマ曲です。「ありがとう この気持ちを伝えよう ありがとう ありがとうたいせつな人へ」の歌詞にのせて、皆さん一人ひとりの思いや願いを、そして震災から11年を経て、新しい飛躍をめざす兵庫からの感謝の気持ちを、全国の皆さんに届けようではありませんか。

これからも音楽を通じて、多くの人々に感動と勇気を与え続けてください。

楽団あぶあぶあの皆さんとミュージカルチームLOVEの皆さんのますますのご活躍を期待しています。

本日の公演のご成功とお集まりの皆さんのご健勝を心からお祈りします。

井戸敏三 (兵庫県知事)

東野洋子さんは不思議な人です。

神戸大学の学生時代に朝日新聞社厚生文化事業団が主催する子どもたちのキャンプのリーダー・カウンセラーを務め、ご自分の心理学の研究を臨床的な場で経験を深めました。これらの人々との関わりが契機となって、20年ほど前からダウン症の仲間と一緒に音楽のプログラムを開発してきました。

この仲間たちは、実は素晴らしい人格とあたたかい心を持っていて、自分たちが楽しむだけではなく、彼らの音楽会に集まる人々の心をも魅きつけてきました。兵庫県下の公演からスタートして、ニューヨークに出かけ、大阪では立派なオーケストラと共演もしました。演奏を通してあたたかい心に触れた人々はいつもの、彼らに惜しみない拍手を送ってくださいます。

皆様のお支えを受けて、東野洋子さんと「あぶあぶあ」の仲間たちが、このたび東京へ出かけます。彼らがともに励まし合いながら伝えようとする心のメッセージは、必ずや大きな反響を呼ぶことと思います。

今井鎮雄 (神戸YMCA 顧問)

感動。今の日本に足りない“感動”をみんなにください。

岩室紳也 (社団法人地域医療振興協会)

ヘルスプロモーション研究センター長)

再演おめでとうございます。たくさんの笑顔に会えますように。

大野明子 (産科医 明日香医院)

「あぶあぶあ」の音楽と踊りは、世界の友と手に手をたずさえ、笑顔と笑顔の輪が広がる世界の友への愛のスピリチュアルメッセージです。

岡本喜代子 (NPO 法人 CFFC 理事長)

あぶあぶあ一人一人の皆さんにとって平坦ではない一年半の道乗り越えてこられました。それらがまたさらに彼等の音楽を深く、高く、輝かしいものになって私たちの心に届くのを楽しみにしています。岡山慶子 (株式会社朝日エール 代表取締役)

楽団あぶあぶあ&ミュージカルチームLOVEの東京第2回公演のお知らせは、それを待っていた人に大きな喜びを与えたはずで

す。それは第1回公演がすばらしかったから。

もう一度あぶあぶあのみなさんと会いたいと思っていたから。

なによりステージの熱気を肌で感じられるあの感動をみんなが待っていました。

6月3日会いに行きます。勇気もらいに！

小山内美江子 (脚本家)

あきらめない。人間の念はやり続ける事によって必ず何らかの形に変わる時がくる。自分の可能性は自分でみつけたい。こんな単純で大切な気持ちにさせてくれる。生きている喜びが感謝の気持ちとなって魂を震わせてくれる。ありがとう！！

香瑠鼓 (振付家)

私自身、命・幸せ・人生とは・・・などと深く考えるきっかけとなったのは、息子の誕生でした。生れ持ったハンディは、本当に様々な事を考えさせられました。我が子への愛しさ、限りある命をどう生きるか、身のまわりに存在するたくさんの幸せの種・・・それらの全

てダウン症児の息子と共に過ごした6年余りの時間が気づかせてくれました。その大切な時間の記念碑とも言うべき本を作り、そしてそれはドラマ化され、放映直前の2004年初秋に東京で皆さんの舞台を拝見する機会に恵まれました。偶然とはいえ、そのタイミングに驚かされましたが、ご縁を感じたものも事実でした。そのパフォーマンスはまさに

“人生そのもの”と言う印象でした。一生懸命とか、がんばる事はカッコいいし、仲間を思いやる姿は愛であふれています。本当に愛されている人は自分を大切にできるし、自分のまわりに存在する全てをいつくしむことが出来る。そして前を向くことができるのは、信じる“何か”が自分の中に存在しているから……そのような事を感じました。皆さんから伝えていただいたその思いを私なりに今この時間を共に過ごしている大切な人達に、そして、心の中の息子に伝えていきます。そんな風に何らかの形でみなさんとつながっていられますように、切に願いながら……。

加藤浩美 (写真家・作家)

だれでも人が懸命に努力する姿にうたれない人はいません。重ねた努力が生み出す力は人の心を動かす力になります。この日を目指して、懸命に、でも楽しく流した汗を忘れずに。素晴らしい公演になる事を応援しています！

加部一彦 (愛育病院新生児科 部長)

みんなおなじ 生きていてって すばらしい

鎌田實 (諏訪中央病院 名誉院長)

< 思いやり、優しい心のミュージカルに感激！ >

きょねん、「ミュージカルチーム LOVE 第1回東京公演」を観て素晴らしいと思ったのはね、大勢の仲間たちで踊っているとき、女の子のひとりが、ダンスの列から離れて、違う方向に行きかけたの。すると、背高のっぼの男性が、すばやく、その子の手を引っぱって列の中に入れてあげて、無事にダンスは続いたんだけどね、「勝ち組」とか「負け組」とかの世の中で、思いやりや親切な心が失なわれているいま、目の前で、こんな優しい助け合いの心を見せられて、私はとても、感動しました。

間違いなく、上手にダンスをすることよりも、こんなところに感激している観客がいることも、知ってほしいな。

北沢杏子 (性を語る会代表)

コンサートのみんなも素敵ですが、練習しているみんなは、まるでうちのお寺の「わらべ地蔵」のように祈りと安らぎと夢を与えてくれます。いつもありがとう。

小池弘三 (須磨寺 貫主)

“人は持てば持つほど不自由になる”

私の大好きなマザー・テレサのことばです。

現代人はあれもこれも欲しがって、とうとう、とっても不自由な人間になってしまいました。

彼らのパフォーマンスにはほんとうの自由があります。

それが見たくて感じたくて6/3を心待ちにしています。”

神津カンナ (作家)

「誠実さこそ、人間のもちあわせる第一の才能である」 このことを実感として教えてくれたのは東野洋子さんである。そしてそのことを教えてくれたのはダウン症の子どもたちだったのではないかと

思う。センチメントを哲学に昇華してしまう東野さんの生き方が、私は好きである。

佐々木久夫 (人間と歴史社 代表)

昨年の公演に参加した幼稚園の教諭と親子は、感動と共感で幸せでした。

公演後多くの幼稚園仲間にもお話ししました。2回目の東京公演のステージを機会にあの感動を、輪をさらに広げたいと思います。

柴田昭夫 (健伸幼稚園 理事長)

2004年9月はじめての東京公演でした。満員のトリフォニーホールが感動の涙と笑いに包まれ、プレーヤーと観客が一丸となったあの感激を今でも忘れることはできません。

洋子さんがいつもお互いを思いやりながら「音を重ねる日々は心を重ねる日々でした。」と述べられておられる事、そしてプレーヤー達の「人生は友情」のことば。まさしくその通り、東京での2回目感激の涙を。さあ、一緒に!!

末原紀美代 (大阪府立大学看護学部 教授)

あぶあぶあとその仲間たちへ……「楽団あぶあぶあ結成25年」そして第2回東京公演、誠におめでとうございます。また、東野洋子さんはじめ、スタッフ、プレーヤーの皆様には永年にわたり「ご苦労様でした」を申し上げます。

「楽団あぶあぶあ」は全国、いや、世界にも類例がないほどの躍進をとげてこれられました。

楽団が誕生して間もない頃、当時、兵庫県知事の坂井時忠さんが「障害者は一般にボランティアの受け手となっているのに、“希望の船”で一緒にした楽団あぶあぶあはボランティアの担い手として、立派にその役割を果たしていた。実に素晴らしい」と年頭の全県職員への訓示のなかで熱い思いを込めて話された事を思い出します。(希望の船:障害を持つ人々と県職員らがボランティアとなつての、総勢600人の船旅。あぶあぶあは洋上コンサートを担当した)

第1回全国ボランティアフェスティバルを厚生省・兵庫県と兵庫県社会福祉協議会が共催して開催した際、楽団あぶあぶあは厚生省の指名のもと公演されました。平成4年の厚生白書には、「第1回全国ボランティアフェスティバルは障害者の音楽ボランティアグループ“楽団あぶあぶあ”の演奏で幕開け……」と、写真入で紹介されています。また、とっておきの芸術祭”に、障害者の芸術参加として、内外のアーティストと共に出演されました。この頃から県外へも公演に出かけておられます。

私がかつて勤務していた知的障害者授産施設でも、多くの利用者は大変音楽好きで、リズムに乗って自然に体が動いています。それにしても、ダウン症や自閉症の人たちを、専門性の高い立派なプレーヤーとして育てて来られた東野さんたちは、すごいなあ、と常々尊敬しているところです。

周りの多くの人びとの理解と協力のもと、プレーヤーの皆さんと音を重ね、心を重ねてのたゆまざる練習に長い年月をかけての情熱、それにも増してプレーヤーのみんなは、お互いを思いやり、励ましあいながらのご努力。これらを支えている友情の輪。こうした福祉の原点にあるものを演奏やミュージカルにより、表現してこられたためか、そこに集う人々は毎回、感動の余りに涙を呼び、それぞれの人生について考えさせ、心の豊かさを取り戻す機会を与えて下さっています。

2000年5月、ニューヨークとニュージャージー州での公演にもご一

緒させていただきました。1000 席の客席は、現地の人たちで満席、そして総立ちの拍手。国内で毎回感じる感動を、言葉や文化、民族の違いを超え、会場のみんながすっかり感激して一緒に歌い、目に涙していたあの感動…まさに音楽に国境はない事を実感したことでした。

"楽団あぶあぶああとミュージカルチーム LOVE"を主宰してこられた東野洋子さんの、みんなと共に歩み、常に前進しておられる地道なご努力、裏方を支えるスタッフの皆さんの尽きることのない創意工夫、そしてそのスタッフをひきつけて止まないプレーヤーたち。これを支えてこられたご家族をはじめ、多くの皆さんに、心からなる敬意と感謝を申し上げますと共に、まさに「継続は力なり」を実感しています。そして、今後更なるご発展と、今回のご盛況・ご成功を心から祈念申し上げ、お祝いのメッセージといたします。「第2回東京公演おめでとう！」

瀬々倉利一（社会福祉法人芦屋市社会福祉協議会 会長）

音楽はどここの国の原語よりも世界に伝わる言葉です。

音楽を通して、喜び、悲しみなど言葉を越えた感情を共有する事ができます。「あぶあぶあ」の演奏は、音楽本来の意味そして生きる事の素晴らしさ、大切さまでもう一度見つめ直させる力があります。彼らの純粋無垢な心、そして音楽に向き合う真摯な姿は、多くの人々に感動と勇気を与えてくれるでしょう。

外尾悦郎（バルセロナ・サグラダファミリア教会彫刻家）
比石妃佐子（ピアニスト）

今も、プレーヤーの方たち一人一人のお顔とともに、友情、生きる喜び、そして感動が蘇ってまいります。本当に素敵なステージでした。

障害は個性です。「この子らを世の光に」（糸賀和夫先生）という時代を目指して、自立支援とともに、心のバリアフリーを推進する決意を新たにしました。今年も皆様にお会いする事を楽しみに致しております。

高木美智代（公明党障害者福祉委員会委員長 衆議院議員）

あぶあぶあのコンサートでは時がゆっくりと流れている。一つ一つの音に、全員の気持ちがかめられているから。

聴いているうち、優しさが体のすみずみにまで染み渡って、幸せな明るい笑顔が生れてくる。

ありがとう

みんなに会えて、よかった。 竹下景子（俳優）

心の真底からの感性の表出にふれることは、現代見逃されやすい人生の大切なものを思い出してくれる気がします。

武谷雄二（東京大学産科婦人科学 教授）

元気で生きる姿をぜひ多くの人に見せてください。

筑紫哲也（ジャーナリスト）

皆さんの歌声に、私たちも共に光の中で歌いたくなります。

皆さんの踊りに、私たちも共に風の中で踊りたくなります。

皆さんのステージに、生きている力が身体の中からふつつつとみなぎってくるのを感じます。

障害のある人もない人も共に手をつなぎ、しっかりと大地を踏みしめ、大空に向かって翔く、そんなあぶあぶあ&LOVEのステージを

私たちはとても楽しみにしています。東京公演おめでとう！

堂本暁子（千葉県知事）

“音楽と共に生きる”ことが私の願いでした。

しかしあぶあぶあの皆さんに出会い“音楽を生きる”ことができることを知りました。いや皆さんには“生きることが音楽”なのかも知れない。命と命の協和音がさらに高らかに鳴り響きますように応援しています。

富澤裕（作曲家 指揮者）

「楽団あぶあぶあ」は私達に感動を与えるだけではない。彼等は私達がより生き甲斐のある生き方をするよう励ましてくれる存在である。

新野幸次郎（財団法人 神戸都市問題研究所理事長）

何を大切にしたいか……

誰を愛したいか……

悲しいことはどんなことか……

怖いことは、どんなことか……

誰もが素直な心で、そんなことを語れる世の中でありたいです。ネーミングが繋がっている世の中でありたいです。

今年もステキな『エネルギーの祭典』でありますように！

二木てるみ（女優）

二十数年前始めて「あぶあぶあ」に出会った時、これこそ magic and music だと思いました。心が魔法にかかったような不思議で美しく笑いたくなるような magic と、思わず飛び跳ねたくて歌いたくなるようなリズムと調べの music。外からはうかがい知れぬ障害があり苦しんだからこそ、こんなに自分を愛し人を愛することのできる心を育てたのだと思います。世界がテロの連鎖で、もはやすがすがしい空が見られないかも知れぬ不安を感じる今、彼らの magic and music に導かれて私たちも人間を愛し信頼する心をよみがえらせたいと思います。

服部祥子（大阪人間科学大学 大学院人間科学研究科長）

公演が終り会場から観客が立ち去った後、舞台上でミュージカルの余韻を全身にたたえたメンバーが二人（たぶん新田さんと藤原さん？）いつまでもいつまでも本番そのままの真剣さと熱心さ、心のこめ方で両手を天にかざして踊り続けていました。「表現せずにはいられない」「表現したくてたまらない」という二人の思いがそのまま伝わって来て、私も「観客」で居続けました。今「表現すること」を仕事にしている人達で、本当に切実にこみ上げるような思いで「そうする」という仕事の仕方を、どれほどの人がしているだろう……と思いつつ二人の舞いを観ました。手垢のつかない自分の表現の私たちを、相手する人の数に関係なく黙々とさせる人が、増えてほしいと願いつつ。そして誰の真似でも無く「自身の内からの声による表現を持つ人」を「見抜く力」を受け取る側も持ち合わせてほしいと願いつつ……。

新田さん、藤原さんは黙々と舞っていました。黙々と。美しかったです。

浜文子（詩人 文筆業）

あぶあぶあの皆さんの活動が私たちにたくさんの勇気や感動を与えてくれています。友情の種がまかれ、世界中にその美しい花が咲くことを願っています。

林覚乗（福岡 南蔵院 住職）

私たちは「あぶあぶあ」の結成当初からずっと彼らの活動を見させていただいています。懸命に練習を重ねて仕上がる一曲一曲は、団員の心が合わさって紡ぎだされる美しいメロディー～それは聞くものの心を楽にする、「生きる輝き」を放つメロディーです。また「ミュージカルLOVE」でのプレイヤーたちは、立っているだけで、手を力強く差しのべるだけで、確かなメッセージを伝えてくれます。「生きる喜び」「友と共にある幸せ」が心身に溢れている彼らのパフォーマンスが、N.Yでもバルセロナでもそうであったように、東京においても多くの人の心を打つであろうことを信じています。

原田宗彦（早稲田大学スポーツ科学学術院）
原田純子

この「あぶあぶあ」や「LOVE」は、障害のある子どもさんたち（成長してる方もいらっしゃるけれど）のパフォーマンスです。

周囲の人たちが心のコミュニケーションが難しいと考えるような障害があったとしても、この「あぶあぶあ」や「LOVE」のように、一緒に音楽をやろう、ミュージカルをやろう、ということに繋がると、共同体のようなものができます。そしてそれは、障害のある人たちだけの間だけではなく、障害のない人との間にもできるのです。

プレイヤーたちは、この舞台に立つため、ハードトレーニングを受けて、自己を表現するということに本当に一生懸命努力しています。

彼らのその情熱を目の当たりにすると、私たちもまた情熱を持って行動しなくてはならないという気持ちになります。きっと、そういうエネルギーが見ている私にも、あなたにも与えられます。

さあ、一緒に、彼らの舞台を楽しみましょう。

日野原重明（聖路加国際病院 名誉院長・理事長）

弱さを誇れるような社会を作ろう。

平山正実（東洋英和女学院大学 教授）

この公演を見た方は皆、感激とやる気の大切さを実感されると信じます。

平山宗宏（日本子ども家庭総合研究所 名誉所長）

わたくしは「あぶあぶあ」の公演をみたことがない。しかし、ものごとに対する感じ方が不思議で、信じられないほどに感度が高い東野洋子さんは、傍から見て常に新鮮な印象を人に与える。この東野さんの不思議で鋭い感性が「あぶあぶあ」の演技と合体すると、そのハーモニーが人に新鮮で強烈な印象と自然の感動を与えるのだろう。「あぶあぶあ」の公演を早く見たいものである。

藤井信吾（京都大学大学院医学研究科泌尿器科 教授）

気持ちにゆとりのある人がここでパワーをもらい、地道に努力を重ねる事がやっぱり希望につながる事を認識するのではないのでしょうか。でも、本当は、誰と制限無く出会ってもらい、驚いてもらいたい世界がここにあります。

藤原一枝（藤原QOL研究所代表 都立墨東病院神経外科）

あぶあぶあと仲間たちを映像取材して10年余りがたちました。ひとりの喜びを皆で分かちあい、ひとりの悲しみを皆で共有するグループです。音とこころを重ねる日々から生れたメッセージは国内外の人々に確実に届いています。すばらしいことです。また東野洋子さんら多くのスタッフの限らない愛情と尽力もあぶあぶあ&

LOVEの魅力のひとつです。しかしあぶあぶあのメンバーは40歳をこえ、その親たちも80歳前後と高齢となりました。映画をまとめるにあたり、グループの活躍だけでなく、それを支えてきたご家族の長い時間と現実を見つめる映画にしたいと思っています。それは皆で考えてゆかなければならない人類共通のテーマだと思ふから

船津一（映画監督）

みんながみんなを大切にして暮らすことが、ふつうであるような世の中をめざして。

みんなであらう。みんなを感じよう。

細谷亮太（聖路加国際病院 小児科部長）

第1回東京公演を見ました。個性豊かなメンバーがそれぞれ協調することを学んだ結果、お互いを大切に思いやりながら作り上げている。それを全部、お母さんのように受け入れ、はらはらしながら、しかし信頼しつつ自信をもって纏め上げ抱きしめている「ひがしのさん」。彼女はいったい何者だろう。情熱家で涙もろくて……。

各地からご年配の親御さんとダウンのお子達が、或いは若いご夫婦が乳母車で赤ちゃんを連れてみえました。これまで色々な思いで過ごされた方々に、たくさん夢と希望が与えられたのではないのでしょうか。又、障害ということを全く、或いは一寸しか知らなかった方たちが、これを機に、もっと多くのことを知ろう、何かお力になればと心をゆさぶられたのではないかと思います。

公演後のパーティーで、緊張感から解放され無邪気に満足そうに飲み、食い、語る彼らの姿も又楽しいものでした。そーっと見守る親御さんたちも「ご苦労様」と語りかけたい長年のご苦労と安堵感が滲み出ているのを思いだします。

「ひがしのさん」健康に気をつけて、何時までもいいお母さんでいてください。第二回、第三回と公演が発展するのを皆で見守りたいと思います。

堀口雅子（産婦人科医）

産婦人科の医者が出生前診断の相談を受けた時、どのようにお話しするか悩みます。「いろんな人がいていいんだよ」「みんなで暮らして行こうよ」と言えたらどんなに良いだろうと思います。「赤ちゃんを選ばない事を選ぶ」といういろいろな立場からの素晴らしい本が出版されました。そして今度は当事者の方々の、チカラ一杯の公演です。ゆっくりでも前へ進んで行こうよというエネルギーを貰えます。

堀口貞夫（産婦人科医）

昨年も「楽団あぶあぶあ～」の公演を観させて頂きましたが、終了後、私まで優しく、幸せな気持ちになったのを忘れることができません。今年も心に響くあの感動を味わいたい！コンサート楽しみにしています！

円より子（参議院議員）

第1回公演のご成功をお喜び申し上げます。つづいての公演が更に多くの人に感動をもたらしますように。かけがえのない命を生きるすべての人に、光と希望を掲げて下さい。

三浦光世（三浦綾子記念文学館 理事長）

人は信じあって努力を重ねていれば可能性は限りなく豊かになるのだと改めて思わせてくれる「あぶあぶ」の皆様のご公演が成功されます事を祈っています。阪神淡路大震災の後、元気をくださった皆様に深く感謝しています

南裕子（国際看護師協会会長、兵庫県立大学副学長）

音楽は心の栄養素。音楽を通して感性を磨き、やさしさに触れ、人と人とが手を結び合う。プレーヤーと聴衆とが一緒になって「音」を「楽」しむ舞台。さあ 新しいメロディーの始まりだ。

武藤芳照 (東京大学大学院 教授)

楽団「あぶあぶあ」とミュージカルチーム「LOVE」2006 東京公演の開催を心よりお喜び申し上げます。

楽団「あぶあぶあ」は、1982 年、神戸で生まれ、以後、二十数年にわたり、国内各地はもとより広く海外で約 190 回におよぶ公演活動を展開し、多くの人々に勇気と感動を与え続けてこられました。神戸出身の楽団のすばらしい活動に対し、神戸市民を代表して、誇りに思うとともに、楽団員の皆様方のこれまでのご協力に対し、心から敬意を表します。

「あぶあぶあ」が支援して 1992 年に結成されたミュージカルチーム「LOVE」とともに開催される今回の東京公演でも、皆様方が練習に長時間をかけ、心をこめて作り出す音楽ステージは、すべての聴衆を魅了してやまないものと確信しています。

東京公演の成功と今後ますますの楽団「あぶあぶあ」及びミュージカルチーム「LOVE」のご発展を心より祈念いたします。

矢田立郎 (神戸市長)

感動の連続でした。これほど純粋に、懸命に、人生をやっている方々がいる！

心よりエールを送ります。

山中百合子 (明日の看護を考える会 会長)

テレビを見ても新聞を読んでも、殺人、暴力、テロ、戦争 弱いものへ弱いものへとツケを回す凶暴な犯罪の報道ばかり。人類が獣ではないことの証である情の文化は、二一世紀に入って衰退、衰弱の一途をたどっている。今必要なのは情の文化のルネッサンス。人間の索漠とした心をオアシスに変える力を持つ「楽団あぶあぶあ&ミュージカルチーム LOVE」に心からの感謝とエールを送ります。

吉武輝子 (著述業)

パンフレットやチラシの写真からさえ、「生きているぞ!」という喜びが聞こえてきそうです。じっくり培われたその声は、人より早く出来る事を追い求める時の流れ、勝つことだけに幸せを感じる価値観に激しい揺さぶりをかけてくるようです。忘れていた大事な何かを思い起こさせてくれそう……そんな予感にワクワクしています。

吉永みち子 (ノンフィクション作家)

その他のサポーターの方々

麻生武志 (東京医科歯科大学 名誉教授)
岸田雅子 (音楽之友社「教育音楽」編集長)
齋藤滋 (特定非営利活動法人健康情報推進機構 理事長)
佐藤綾子 (株式会社国際パフォーマンス研究所 代表)
田中康夫 (長野県知事)
中村丁次 (神奈川県立保健福祉大学 教授)
橋詰直孝 (和洋女子大学家政学部 学部長、教授)
増田秀暁 (ココロネット代表)
三宅洋三 (医療法人社団 三恵会 理事長)
葭田美知子 (看護師・NPO 法人メイアイヘルプユー 理事)
渡辺真一 (経団連・業種団体 私立幼稚園経営者懇談会)

(五十音順)